



ルリーロ福岡通信

ラグビータウンプロジェクト推進係 75 - 3343

ルリーロ福岡で学生広報をしている久留米大学おやまの小山りんです。今回は福岡県立浮羽究真館高等学校（以下、浮羽究真館高校）を卒業されたのち福岡大学へ進学し、現在、東プレ九州株式会で働きながら、ルリーロ福岡の選手として活躍されている井上大志郎だいしろうさんにインタビューをしました。

うきは市へ戻ってきた経緯や、高校時代から現在までの思いをご紹介します！

ー思い出の地“うきは市”でのスタート

「大学生の時にルリーロ福岡と練習試合をしたことがあり、その縁で、ルリーロ福岡から、うちの選手にならないか、と声をかけていただきました。大学卒業と同時にラグビーを引退しようと思っていたのでラグビーを続けることを悩みましたが、うきは市がルリーロ福岡のホームエリアのひとつであること、そして練習拠点である浮羽究真館高校のグラウンドは、僕が高校時代に合宿をしたり、練習をしたり、思い出がたくさん詰まった場所であることなどから心が動き、『チームに入りたい』と直接伝えました」

ー会社員ラグーマンとして

「現在は東プレ九州株式会で事務職をしています。仕事が終わってから練習に行くまでの移動距離が短くて快適で練習に取り組みやすいです。また、僕自身が現役選手ということで、職場の皆さんに応援していただいております」



職場で業務中の井上さん

ーラグビーが繋ぐ笑顔

「地域のイベントに参加した時に、子どもから大

人まで幅広い参加者の皆さんの楽しそうな表情が印象に残っています。ルリーロ福岡の一員として、そのような場を提供できていることが、地域にとっても良い影響を与えることができているのではないかなと感じています」

ー今後やり遂げたいこと

「僕たちの活動は、うきは市の皆さんをはじめとする多くの方々の支援があってこそ成り立っています。だからこそ、1つでも多くの公式戦を勝って応援してくださった方々に恩返しとして活力を届けたいです。僕たちのことを知ってくれている人たちも増えてきているので、勝利の報告をして、少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。また、応援に来てくださった人たちが繋がって色々な輪が広がってほしいです」



公式戦に出場する井上さん

かつて、うきはの地でラグビーの練習に励んでいた高校生がプロの選手となり、再びうきは市に戻って地域で働きながらプレーする。仕事をしながら、好きなスポーツを人生の軸に据えて生きる姿は今、練習に励んでいる高校生たちにとってロールモデルとなるかもしれません。

今シーズン、選手として公式戦への出場回数も増え、さらに肉体もパワーアップして成長し続けている井上さん。その勢いに呼応するように、浮羽究真館高校ラグビー部の生徒たちも年々力をつけています。うきはの地で練習し、積み重ねた日々。ラグビーを通じて生まれる地域とのつながりが、これからもうきは市をさらに豊かにしてくれると信じています。